

(京都市民健康づくり推進会議資料)

「健康長寿のまち・京都推進プロジェクト」について

1 健康長寿のまち・京都推進プロジェクトの概要

これまでの取組

- 「京都市民健康づくりプラン（第2次）」に基づき、京都ならではの取組や強みを活かした健康づくりを進めてきたが、本市のあらゆる施策の更なる融合により、全庁を挙げた取組として推進していく必要がある。
- 全ての市民の皆様に、様々な健康づくりの活動に参加いただくためには、行政による取組のみでは限界があり、オール京都で、市民ぐるみの運動として展開していく必要がある。

健康長寿のまち・京都推進プロジェクト

プロジェクトの目的

京都市民の健康寿命を延伸し、平均寿命に近づけ、年齢を重ねても地域の支え手として活躍できる、活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」の実現

「施策の融合」

⇒ 本市の関係施策の徹底的な「融合」による、市民の主体的な取組を全市的な運動として推進するための「仕組みづくり」

「市民との共汗」

⇒ 幅広い市民団体、関係機関、民間企業等との「共汗」による、幼少期から高齢期までのあらゆる世代を対象とした市民ぐるみの運動の展開

連携して推進

2 28年度の主な取組実績

(1) 「健康長寿のまち・京都 庁内推進本部」会議の開催（4月）

本市藤田副市長を本部長とし、関係する各局区等の長により構成される会議体による、本市各局区等関係施策の融合検討。

(2) 健康長寿のまち・京都市民会議発足（5月）

オール京都で市民ぐるみの健康づくりを推進していくための運動組織として、「健康長寿のまち・京都」の取組にご賛同いただいた90の市民団体・関係機関・民間企業等の参画により5月に発足。（現在の構成団体は別紙○参照）

設立総会において、市民公募を行っていたプロジェクトの目標となるキャッチコピーと取組のロゴマークを選定。



(3) 市民会議発足記念イベントの開催（6月）

市民会議の発足を記念し、本市と市民会議の共催によるイベントをKBS京都ホールで実施。市民会議構成団体による各団体の取組発表や、キャッチコピー・ロゴマーク公募に係る優秀作品の表彰式を行った。

また、京都市健康大使の就任式を行い、就任式にご参加いただいた朝原宣治氏、奥野史子氏、市田ひろみ氏らによる健康づくりトークセッションも実施。

(4) 健康長寿のまち・京都ポータルサイトの開設（8月）

健康づくりに関する情報発信の充実のため、「健康長寿のまち・京都」の理念や取組を総合的に情報発信するポータルサイトを開設。

フェイスブックなどのSNSの活用や積極的に健康づくりを行う市民を取材し紹介するなど双方向での情報発信を図る。



(5) 健康長寿のまち・京都いきいきポイントの実施（8月）

日々の健康づくりの活動を「健康ポイント」として「見える化」することで、達成感を得つつ習慣化を図るとともに、一定の活動成果によって抽選でプレゼントが当たる「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」を平成28年8月から開始。（事業周知チラシ参照）

本市が実施するイベントや市民会議構成団体が実施するイベントなどを広く「健康ポイント」の対象として御登録いただき、ポータルサイトやお出かけイベント情報チラシにて紹介するとともに、「健康ポイント」獲得のため市民の方がイベントに足を運ぶきっかけとしていただく。

また、本市や医療機関等が実施する人間ドックや各種健診（検診）も「健康ポイント」の対象とし、健診受診率の向上を図る。

28年度は第1回応募に1,516件、第2回応募に1,430件のご応募をいただいた。

(6) 健康長寿のまち・京都いきいきフェスタの開催（11月）

多世代交流・学習型イベントとして、本市等が実施する「エコまちフェスタ」、「消費生活フェスタ」、「京都やんちゃフェスタ」、「市民すこやかフェア」と融合し、5つのイベントを同日、同会場にて実施。

市民会議と共催で実施し、市民会議構成団体に団体の取組PRブースの出展をいただくとともに、構成団体自らが内容を企画したステージも披露した。

また京都市健康大使である本田紗来さんにステージ出演をいただき、健康的で規則正しい生活を送ることの大切さをトークセッション方式でPRいただいた。

(7) 京都市政広報動画「平成KIZOKU」による事業PR（12月）

市長公室広報担当と融合し、京都市の個性的な取組をコミカルかつキャッチーに取り上げる京都市政広報動画「平成KIZOKU」シリーズで「いきいきポイント」編を作成。93歳の現役ランナーが年齢を感じさせない走りを見せて「いきいきポイント」への参加を呼び掛ける、「こんな風に年齢を重ねたい」をインパクトのある動画で表現。



(8) 市民会議構成団体主催イベント等との共汗内容等

市民会議構成団体が主催するイベントにブース出展を行い、健康長寿のまち・京都の取組をPRするなど共汗での市民啓発を実施。

(e x. くらしと健康展, 健康づくりフェスティバルなど)

また、健康長寿のまち・京都の取組や「いきいきポイント」への応募呼掛けなどを市民会議構成団体と連携して実施。

(e x. すこやかクラブ京都の月刊新聞や京都市地域女性会の月刊新聞等への啓発記事掲載。市民会議構成団体会員への事業周知など)

(9) 各区役所・支所による健康長寿のまちづくりの取組

各区役所・支所においても、地域に密着した健康長寿のまちづくりの視点での取組を各種実施。市民会議の各区版として、北区・左京区・右京区において、各区の地域団体や関係機関、民間企業等が参画する推進組織が新たに立ち上がり、推進組織との協議のもと、独自の健康づくり運動を展開している。

また、それ以外の区・支所でも区民からの提案を受けて事業補助金を支出する予算のメニューに健康長寿のまちづくりの視点を加えたり、区の運営方針の重点事項として健康長寿のまちづくりを掲げ、地域団体と共同で独自事業を実施したりするなど、区民主体の取組を実施。

3 29年度の取組予定

「いきいきポイント」や各区独自の取組を充実していくとともに、市民会議や本市関係局区と連携した取組を推進していく。

(1) 本市関連施策, 市民会議構成団体実施事業との更なる融合

保健福祉の分野にとらわれず、文化、スポーツ、新産業振興等各局・区等が実施している様々な取組に「健康長寿」の視点を盛り込んでいく、また市民会議構成団体が実施している様々な取組を「いきいきポイント」と更に連携していくなど、オール京都での「健康長寿のまち・京都」の取組を推進していく。

(2) 「健康長寿のまち・京都いきいきアプリ(仮称)」の開発

「いきいきポイント」の利用促進及び事業参加者の増加や、健康づくりの取組を推進、継続できる環境を目的として、アプリを開発する。

アプリ開発により、例えばアプリによる健康ポイント獲得数確認機能やプレゼント応募方法の簡素化、スマートフォン既存のヘルスケアアプリとの連携による「歩数」や「体重」の把握により、健康づくりの成果の「見える化」促進など、健康づくりを楽しみながら継続していくための機能を付与していく。

(3) 広報活動の強化, アウトリーチ型の取組の強化

子ども若者はぐくみ局の創設に伴い、各区役所・支所を再編し、地域の特性に応じた取組、職員の積極的な地域への出向や地域ニーズに応じた健康教室等の開催等、アウトリーチ型の取組を強化し、地域に密着した「健康長寿のまち・京都」の取組を推進する。